

愛知サークル5月例会報告

2020年5月24日(日) 名東小 参加：4名

コロナ休校明けを1週間後に控え、例会を再開した。午前中のみでの開会で参加者は4名だったが、学級開きのやり直しを念頭に、教材解釈を中心に行った。

I 文学教材の追求

「だれにあえるかな」(5・6年)

学級開きの教材として本教材の授業の展開案が提案された。「会う」という言葉の意味を使って、それを根拠に深い読み取りをねらった授業案である。

- 学級開きの教材の扱いをどうすべきか。まずは、言葉の意味を根拠に深く読み取る楽しさを体験させたいとのねらいがあるが、学級開きだからこそ、文学教材の学習の仕方を入れていくべきではないか。言葉レベル、行動レベルでの「変だ、おかしい」の問題づくりや対立問題づくり、問題を共有し、対立する問題を解決する楽しさをこの時点で味わせたい。そのためには、まず教師が解釈をもっていないといけない。
- ⑭段落の「ぴょんがおかあさんに会いたくなかった理由はなんだろう。」や「ぴょんがおどりながらかえった理由は何か。」などは、「へんだ、おかしい」として出てくることが予想される。これらの問題が解決できるなら、取り上げていけばよい。

「とん こと とん」(1年)

一年生にとって初めて取り組む長文である。

- 「なぜ二人はなかよしになったのか」が、一番の問題だろう。その原因は前にある言葉「よろしくね。」(自分を見限ることなく末永くよろしく)であろう。
『とん こと とん』は、質問か、質問じゃないか。「がたがた音がしたら、普通は『おかしいな。なんだろう。』である。ねずみが床をたたくのは、へん。」など、問題ができる。
- 「がたがた」と「とん こと とん」の、音の違いやそれ以外のいろいろな音を出させて、音の違いを考えさせるのも一年生には楽しいかもしれない。
- 一年生でも、追求の授業を目指したい。この時期に、何ができるか。何はやるべきか。

○「尾木ママへの7つの質問」より

- Q1 子どもたちとの「心の距離」をどうすべきか？
- Q2 夏休みを短縮しての授業で、熱中症の心配は？
- Q3 勉強の遅れをどう取り戻したらいいの？
- Q4 新型コロナになる前と同じような生活はできる？
- Q5 気が緩んでいて忘れ物をいっぱいしそう…どうしたら？
- Q6 からかいやいじめが心配…学校や保護者はどうしたら？
- Q7 このような時代に、親として」どう子どもと向き合うべきか？

尾木ママに代わって、自分ならどう答えるか。自分なりの考えをもつことが求められる。